

# 健康平和研究

## 22年第2章 本質論理

### 意志と必然 1 在野の学問 1

22年9月15日号より

(や＝山田 学)〔☆☆意志と必然☆☆☆☆  
山田が、1981年、東大工学部を中退する、そのきっかけとなつたのは、意志と必然の統一といふ、根本論理の問題に、自由に、挑みたかつたからです。

この問題について、わたしの最新規定は、次です。

世界は、現象において、偶然と意志があり、本質において、必然がある。

世界の必然に、おまかせし、自身の肚のままに、生きる。

世界の必然 (物理・生理・認識理の必然) に、おまかせし、自身の肚 (道徳・経営・公会発達の意志) のままに、生きる。]

22.5.16より

(や)〔☆☆在野の学問☆☆☆☆ウクライナ有事の今後を、簡単には、予想できません。が、もっとも発展した、近代的国家 (大統領一共和政のものと、連邦制) たる、米国内の、資本制生産も、一方、中国共産党による統制と保護のものと、資本制生産も、限界を、迎へつつあります。それで、米国社会などにて、あらためて、「社会主義」を追求する動きが、

とくに若い世代に、高まつてゐるやうです。しかし、決して、楽観できません。「社会主義」とは、何を、意味するのか？ それで、ほんたうに、今の諸問題を、まともに、解決できるのか？ マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンなどは、どこまで、正しく、どこから、誤りだつたのか？ これを、まともに総括できない限り、旧ソ連邦などと、同じ失敗を、くりかへすかもしれません。少くとも、今のプーチン大統領らは、ソ連邦失敗の過程を、かへつて、内部から、熟知してゐるやうです。

「社会主義」が、社会といふ対象の、現象・構造・本質を、まともに理解した上にて、社会を、理性的に指導し、運営することを、意味するなら、まともな理解こそが、大前提です。

マルクスは、社会の本質論として、社会構成論を、提唱しました。社会は、生産 (経済) といふ土台の上に、国家といふ上部構造があり、また、思想といふ上部構造もある。社会は、生産と国家と思想の統一である。マルクスが、生産 (経済) について、研究を進めたのは、学問として、まづ、生産 (経済) といふ対象を、優先したにすぎず、国家といふ対象や、思想といふ対象や、さらに、社会でない、自然といふ対象も、学問化を、希望してゐたやうです。自然といふ対象については、エンゲルスが分担し、その入門にあたる部分のみが、生前に、実現しました。彼らは、全

学問を、勝手な観念にて、まとめあげた、ヘーゲルに対する、批判的な弟子として、現実を対象とし、すべてをやり直すことこそが、目的でした。

この目的を、かなり継承できたのは、世界広しと、言へど、実は、実は、20世紀以降の、日本社会にて、しかも、在野の学者のみだつた、のです。

わたし、山田 学も、そのひとりの、つもりですが、先のマルクスによる、社会構成論を、さらに発達させた理論を、ここに、提唱させていただきます。

＊

社会には三面があります。

①社会の生産の面。生産としての社会＝生産社会です。

②社会の認識表現の面。認識表現としての社会＝認識表現社会です。

③社会の規範の面。規範としての社会＝規範社会です。

①は、社会において人民おたがひが自然およびおたがひの生活を対象とし生産しあふ (労働により対象を調整しあふ) 面です。

②は、社会において人民おたがひが世界を認識し表現しあふ面です。

③は、社会において人民が規範 (主体的な意志の客観的な調整) により組織される面です。

人間社会の発達 (伝統と創造) には生産発達と認識表現発達と規範発達とがあります。

①人間社会の生産発達のうち、剰余労働量集積に着目したのが、ドイツのカール・マルクス師 (1818～1883) による資本論です。

②人間社会の認識表現発達のうち、認識と表現の本質に着目したのが、日本の三浦つとむ師 (1911～1989) による認識表現論です。

③人間社会の規範発達のうち、諸民族闘争調整と資産階級闘争調整に着目したのが、日本の滝村隆一師 (1944～2016) による国家論です。

以上を承け、日本の山田 学 (1956～) による試みです。

①生産発達として、人民がおたがひの健康平和な生活を生産しあふ可能性を、探る。

②認識表現発達として、諸言語とICT記号の未来を、展望する。

③規範発達として、諸民族調和と資産循環への規範を、追求する。

**\***

まさに、今の日本マスメディアには、まったく登場しない、学問の動きであり、志の継続に、それなりに、苦勞してはをります。

ともかくも、それなりに、生かさせていただいて、をります。]